

丹鶴叢書

萬代和歌集 九十

093.1

2006

佛教大学図書館



2005494526

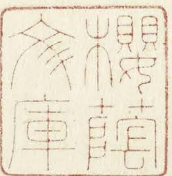




萬代和歌集卷第九

意哥一

女八本のなほよきしるしき



業平歌集

続古今恋一たい

男玉葉恋一のなほよきしるしき

歌一玉葉恋一 小所

女玉葉恋一のなほよきしるしき

伴繁

諸本

男玉葉恋一のなほよきしるしき

友切

玉葉恋一
あはれなる御心はさしづめ
あはれなる御心はさしづめ

あはれ

同恋一

あはれなる御心はさしづめ
あはれなる御心はさしづめ

延喜十一年皇極院御会
御心

あはれ

統古今恋一

あはれなる御心はさしづめ
あはれなる御心はさしづめ

統古

あはれなる御心はさしづめ
あはれなる御心はさしづめ

統後拾遺恋一

あはれなる御心はさしづめ
あはれなる御心はさしづめ

あはれ

あはれなる御心はさしづめ
あはれなる御心はさしづめ

万

後原元吉

統古今恋二

あはれなる御心はさしづめ
あはれなる御心はさしづめ

洞院中宮御会

あはれ

玉葉

玉葉

玉葉

あはれなる御心はさしづめ
あはれなる御心はさしづめ

あはれ

統千載恋二

あはれなる御心はさしづめ
あはれなる御心はさしづめ

統後拾遺恋一

あはれなる御心はさしづめ
あはれなる御心はさしづめ

あはれなる御心はさしづめ
あはれなる御心はさしづめ

あはれ

統千載恋一
玉葉

玉葉

五葉恋一

わが恋はあまのこゝろにまはるる

三木

恋の

あまのこゝろにまはるる

恋の中へ

あまのこゝろにまはるる

西へ

あまのこゝろにまはるる

東へ

あまのこゝろにまはるる

右大士の時のふさふさ

続後拾遺恋一

続古今恋一

後法皇と入道皇太子

あまのこゝろにまはるる

久あふささ

あまのこゝろにまはるる

後鳥羽院時教供

書の内大せ

あまのこゝろにまはるる

二条院時ふさ

刑教の

あまのこゝろにまはるる

中納言定房

後法性寺入道定房の御子定房
定房の御子定房の御子定房

宣耀殿

後法性寺
宣耀殿
宣耀殿
宣耀殿

後法性寺

宣耀殿定房相国侍

宣耀殿定房相国侍

宣耀殿定房相国侍

宣耀殿定房相国侍

後法性寺

宣耀殿定房相国侍

七月廿一日

延喜寺

宣耀殿定房相国侍
宣耀殿定房相国侍

中納言定房

宣耀殿定房相国侍
宣耀殿定房相国侍

後法性寺入道定房の御子定房

宣耀殿定房相国侍

宣耀殿定房相国侍
宣耀殿定房相国侍

後法性寺入道定房の御子定房

宣耀殿定房相国侍

新十
宣耀殿
宣耀殿

後法性寺

宣耀殿

宣耀殿

新統古今恋一

~~~~~

大治二年唐國社家~~~~~

後之桑内大也

~~~~~

九条右大臣家~~~~~

靱負

~~~~~

~~~~~

申納定也

~~~~~

新十八月~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

新十載傳目

万

~~~~~

同恋四 云内内傳

~~~~~

~~~~~

統古一恋一

~~~~~

統古

同下

~~~~~

~~~~~

~~~~~

統後撰恋一

~~~~~

~~~~~

後二位家陸

統後

統古

徳後拾遺恋一

玉葉恋一

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

入楽院

徳後拾遺恋一

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

藤原頭縁部也

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

正三位經家

万

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

宣仁門院一条

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

東一條道圓日方改ちせ

徳後撰恋一

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~





新千載志二

同子... 後鳥羽院序

統古今志一

... 後鳥羽院序

...

...

...

...

...

洞院控政前在也

統後撰志二

...

奇玉 龍巻

前大納言家

...

入道 接政家

源子重 原經也

...

平政村 敦也

...

...

...

不<sub>レ</sub>道<sub>レ</sub>意<sub>レ</sub>々々々々

法橋頭昭

~~~~~

河_レ右_レ社_レ家_レ々々々 如_レ内_レ侍

~~~~~

河<sub>レ</sub>院<sub>レ</sub>接<sub>レ</sub>政<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>々々々々

後<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>位<sub>レ</sub>判<sub>レ</sub>能

~~~~~

~~~~~

~~~~~

徳格
たいへん
院少将内侍

徳捨遺徳二

徳後撰徳一

備一本

玉葉書の中

部一々々

業平新也

~~~~~

延<sub>レ</sub>喜<sub>レ</sub>十<sub>レ</sub>二<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>院<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>々々々

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

徳後拾遺徳二

徳後撰徳二

徳後拾遺徳二

六条右大臣家系

藤原兼俊

藤原兼俊の御孫藤原兼房の御孫藤原兼光の御孫藤原兼家

藤原兼光

兼光法師

兼光法師の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光

兼光法師

兼光法師の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光

兼光法師の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光

徳吉今恋一

西園寺入道藤原兼光

十本

統後撰恋二

藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光

藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光

藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光

藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光

藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光

藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光の御孫藤原兼光

続後拾 巻五の中

万有の世に 如く成り

続後拾遺恋三

続後拾

同上

同上

まはるる世に 如く成り

意をたすに 素性法は

敷ぬの世に 如く成り

かき

玉葉恋三

行く世に 如く成り

この玉

正曆四年 帝刀は

巻十

大江赤

続手載恋二

保元元年 内言

法性道人 國日大

まはるる世に 如く成り

意をたすに 素性法は

敷ぬの世に 如く成り

入道 按政家

後三位 行能

まはるる世に 如く成り

洞院 按政家

藤原 院女

新後撰恋二

続古今恋一

まはるる世に 如く成り

読書 不遇長の

読書入巻二

後原為教中

大江匡衡中

平比呂

年比呂

是濟

是濟

是濟

是濟

是濟

是濟

是濟

是濟

是濟

是濟

是濟

是濟

是濟

是濟

是濟

是濟

後鳥羽院所教供

読後撰巻一

読後

家の歌あり 大納言能実

為健の歌あり 波の曲あり 和歌あり 和歌あり

和歌あり 和歌あり 和歌あり

和歌あり 和歌あり 和歌あり 和歌あり

俊頼の歌

和歌あり 和歌あり 和歌あり 和歌あり

和歌あり 和歌あり

大納

和歌あり 和歌あり 和歌あり 和歌あり

和歌あり 和歌あり

続古 抄巻のふと

続古今恋

和歌あり 和歌あり

和歌あり 和歌あり 和歌あり 和歌あり

和歌あり 和歌あり

和歌あり 和歌あり 和歌あり 和歌あり

是也

和歌あり 和歌あり

和歌あり 和歌あり

徳後拾遺恋一

はるかにあはれさの風はなほはるかに吹く

女はつらつらとさるる 是れは親王 元良

徳千載恋一

こころのこころをわらわたりてはなれぬ

きくはらへ 再宮太夫大五

あはれさの風はなほはるかに吹く

永久女御内侍家おかしき

権中納言実光

あはれさの風はなほはるかに吹く

あはれ

あはれさの風はなほはるかに吹く

五

延喜十三年三月院家

あはれ

新千載恋四

あはれさの風はなほはるかに吹く

あはれ 中納言おかしき

あはれさの風はなほはるかに吹く

一品資子内親王

あはれさの風はなほはるかに吹く

千五女御太方の家 二條院讃岐

新後撰恋三

あはれさの風はなほはるかに吹く

丹鳥叢書

慈徳大徳正

我が心は... 中納言... 家

久米... 上西院... 家

中納言... 頼

同内侍

...

花山院前太政大臣

法性寺入道... 権中納言... 俊

...

氏部... 頼

河院... 家

前中納言... 家

続古今恋二

鏡古 たのむ

あはれなる月日のあはれなる

あはれなる

西の法師

鏡古今恋二

鏡古

あはれなるあはれなるあはれなる

平康朝

新鏡古今恋二

あはれなるあはれなるあはれなる

小侍従

あはれなるあはれなるあはれなる

源師光

あはれなるあはれなるあはれなる

比縁のふさふさ 信実朝臣

新後拾 光俊朝下よ
子せはるるのふさふさ

新後拾遺卷二

あはれなるあはれなるあはれなる

藤原為氏朝臣

鏡古今恋二

あはれなるあはれなるあはれなる

不承のあはれなる 藤内侍

あはれなるあはれなるあはれなる

延喜十一年の院のあはれなる

あはれなる

玉葉卷一

あはれなるあはれなるあはれなる

あはれなる

あはれなる

同卷一

あはれなるあはれなるあはれなる

玉意のちのち

源順

玉葉恋四

玉葉恋四
源順院中宮家令子 仲家朝王

同恋一

同恋一
中納言家成のちのち

藤原氏の朝王

同恋一

同恋一
津も國基

二條院は時意の 橋大納言國基

万

新後撰恋二

新後撰恋二
橋中納言經之の家兼令子

新後撰

玉

意のちのち
玉葉恋五保

玉葉恋一

後三位朝政

同恋一

玉葉恋一
藤原隆信朝王

風雅恋五

風雅恋五
藤原右車朝王

玉葉恋三

玉葉恋三
修理大夫顯季

徳意のこころ

歌

小雀籠

徳吉全志四

~~~~~

清書

井

~~~~~

新造社より 六條入道大政大臣

~~~~~

左

~~~~~

新千載志三

~~~~~

~~~~~

如鳥成部

玉葉志三

~~~~~

~~~~~

~~~~~

同志二

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

為可抄致右大臣の所の書と云ふ事

信実の書

源朝臣の國の御事書にてもたつたての御事書の
洞院抄致家書と云ふ事

後之佐家陸

源朝臣の國の御事書にてもたつたての御事書の

法性寺入道朝臣の御事書と云ふ事

尋失一本

と
権申納立師俊

源朝臣の國の御事書にてもたつたての御事書の

おのゝ書の御事と云ふ事

五
源朝臣

基俊

源朝臣の國の御事書にてもたつたての御事書の

と
源朝臣の國の御事書にてもたつたての御事書の

源朝臣の國の御事書にてもたつたての御事書の

長能

源朝臣の國の御事書にてもたつたての御事書の

長能

源朝臣の國の御事書にてもたつたての御事書の

肥後

源朝臣の國の御事書にてもたつたての御事書の

統後 源朝臣の御事

源朝臣の御事

肥後

新十載雜下

ふ、新十

諸本新十

統後撰恋二

丹波書

統後玉葉
ついで

同
ついで

統後拾光明
ついで

統後撰恋一

保四律山家
後鳥羽院侍

不
法性

恋十
綱

洞院接政

統後拾遺恋一

大炊侍
右大臣

堀河
時艶

内

千
法橋

恋
法性

恋
法性

右大将道徳

高橋急と お申納る光

新後撰恋二
殿富の院土御玉光前中納言資光

八条太政大臣

中院五太中

続後
不
と

中納言伴平

万

続後撰恋二

紀原宗

道因法師

待賢の院堀

続後拾遺恋三

保津光

続後拾

続後 左のまゝ
えまぢつて
ーとんてん

続吉 三のりの中

久あまらるる 清輔殿也

まじらるる 和泉守殿

洞院按及家不さるる 不さるる

皇太后宮主 俊成女

続吉今恋二
け 続吉

後三位 伊弉

近奉 延法師

続後拾 右をるゆ
く
ふ
と

続後撰恋二

氏新々光忠

たいらるる 俊頼殿也

基 俊

続後拾遺恋二

下袴のまじらるる 馬内侍

新平載恋一

新平 八新平

新拾 光明峯寺合
子拾遺書

新拾遺書

河院接取たた

新拾遺書

從二位家隆

新拾遺書

源家長教也

新拾遺書

太子太子家の

俊惠法師

新拾遺書

新後 光明峯寺合
子拾遺書

新後撰書二

新後撰書

長結

長結

大納言光教

皇太后宮亮俊成

從三位教成

新後撰書

~~~~~

藤原隆方

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

子甲

~~~~~

~~~~~

~~~~~

子甲

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

本院侍從

新後撰意一

新後撰意一

正二位經家 三本 李同上

用

院 李合一本

後之

海

十

大江

海

海

玉兼恋三

玉兼恋三

鏡後拾遺

鏡後拾遺

鏡古今恋二

鏡古今恋二

鏡古

鏡古

鏡古

鏡古

鏡古

鏡古

五葉恋三

五葉恋三

あつちのうらなひに
つらき恋のつらき
延喜十三年三月三日
つらき恋のつらき

続後撰恋三

つらき恋のつらき

あつちのうらなひに
つらき恋のつらき
つらき恋のつらき

あつちのうらなひに
つらき恋のつらき
つらき恋のつらき

続後撰恋三

つらき恋のつらき

あつちのうらなひに
つらき恋のつらき
つらき恋のつらき
つらき恋のつらき
つらき恋のつらき

続古今恋三

万

続古今恋三

あつちのうらなひに
つらき恋のつらき
つらき恋のつらき
つらき恋のつらき

尚侍家中納言

寛治五年後二位親王子家

つらき恋のつらき

続後撰恋三

御芳門院歌合よ
修理大臣歌合よ

あつちのうらなひに
つらき恋のつらき
つらき恋のつらき
つらき恋のつらき
つらき恋のつらき

かよひのうらみ ちかひの親を 元良
わがものうらみ ちかひの親を 元良
徳たたち 長安家 ちかひの親を 元良

徳古今恋二
と諸本徳吉

大京大夫源時

徳も ちかひの親を 元良
入道お披露 ちかひの親を 元良

徳後撰恋五 後堀河院氏ヲ御共侍

氏親ノ典侍

徳も ちかひの親を 元良
同一家の村也

藤原ノ院少将

徳後拾 光明寺上人
その抄取のり

徳後拾遺雜上
わがものうらみ ちかひの親を 元良

女のうらみ ちかひの親を 元良

同恋一

ちかひの親を 元良

徳後拾 ちかひの親を 元良

ちかひの親を 元良

玉葉亦二

久安百首山 侍受門院塔河

徳拾遺恋三

ちかひの親を 元良 八条院六条

わがものうらみ ちかひの親を 元良

玉葉恋三

躬恒

五月のたそがし月の影のあつらふに秋入のまじり

中納言家持

くまの侍人あまのこふゆふのあつらふに秋入のまじり

徳後撰恋三 たのし

あまのこふゆふの

あまのこふゆふの

村のあまのこふゆふのあつらふに秋入のまじり

徳後拾遺恋

あまのこふゆふの

あまのこふゆふの

あまのこふゆふのあつらふに秋入のまじり

村のあまの

徳後右大臣

あまのこふゆふのあつらふに秋入のまじり

新徳古今恋三

あまのこふゆふのあつらふに秋入のまじり

後法皇の道成天皇自大臣時あつらふに秋入のまじり

月姫のあつらふに秋入のまじり

あまのこふゆふのあつらふに秋入のまじり

あまのこふゆふの

あまのこふゆふのあつらふに秋入のまじり

正法寺のあつらふに秋入のまじり

あまのこふゆふのあつらふに秋入のまじり

建保のあつらふに秋入のまじり

徳後撰恋三

あまのこふゆふのあつらふに秋入のまじり

W... ..
~~~~~

W... ..  
~~~~~

W... ..
~~~~~

W... ..  
~~~~~

~~~~~

W... ..

~~~~~

大納言陸奥守

W... ..

待可明一本~~~~~

W... ..

~~~~~

W... ..

~~~~~

~~~~~

W... ..

~~~~~

權大納言三右

村名ヨリ申上ルル御事ニ付テ

夕迄也

藤原陸祐

申上ルル御事ニ付テ

御事ニ付テ

申上ルル御事ニ付テ

申上ルル御事ニ付テ

申上ルル御事ニ付テ

申上ルル御事ニ付テ

申上ルル御事ニ付テ

五

統古今志二

大納言朝光

申上ルル御事ニ付テ

申上ルル御事ニ付テ

申上ルル御事ニ付テ

申上ルル御事ニ付テ

申上ルル御事ニ付テ

申上ルル御事ニ付テ

申上ルル御事ニ付テ

丹雀齋書

十ノ廿六止

